釜小だより

2024年4月 30 日
横浜市立釜利谷小学校
5月号

学校ホームページアドレス http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariya/

移り変わり

校長　安達　修久

サクラが咲いたと思ったら春が瞬く間に過ぎて、日中は気温が上がり初夏の陽気になってきました。校庭のツツジ、ボタン、裏山のフジが次々に花を咲かせ、周りの山々は若葉の緑にいろどられています。ウグイスの声が響き渡り、季節は次々移り変わっていきます。

釜利谷小学校ではメンバーが移り変わり、新しい１年生が加わりました。4月19日の「1 年生を迎える会」で2〜6年生たちに迎えられ、全校での活動に初めて参加しました。

上級生たちは各学年ごとに、趣向を凝らした呼びかけで歓迎の気持ちを表していました。全校で「もうじゅうがり・釜小バージョン」を行ったときには、すぐにクラス・学年の壁を越えて、一緒になってグループをつくっていました。1 年生のお礼の言葉と歌も元気よく、上級生たちもうれしそうでした。初めての場への参加態度がとてもすばらしかった 1 年生たちに、「学校目標『たのしい　わたしの学校』にできそうですか？」とたずねると、「はい！」という元気な返事や挙手、うなずきが返ってきました。

思えば昨年の 4 月にはまだ全校で集まることができず、「1 年生を迎える会」はテレビ放送で行っていました。「全校で参加する」という意味ではテレビ放送でも十分主旨が伝えられますが、やはりお互いの発表を見合ってそのよさやすばらしさを受けとめ、歓迎の気持ちとそれらが心に届いたことを相手に伝えられる場になるので、集合して会を行う意義は大きいと感じられました。

昨年度は5年生だった今の6年生が、立派な姿で1年生にプレゼントを渡したり、会に参加したり進行したりする姿を見て、ここにも移り変わりを感じました。他日、ついこの前まで4年生だった新5年生が、委員会に参加して学校のための活動をするようになっていました。2年生が3年生に、3年生が4年生に…用事で職員室に来た子が、「失礼します。1年〇組の〇〇です。あっ、2年〇組だった」などと言い間違えてしまうのも、年度はじめによく見る姿です。一つ学年が上がったという事実だけではなく、学習も活動も変わり、下の学年にその姿を見られるという立場も加わり、確実に成長していることが目の前に実感できます。廊下ですれ違う一人一人の子と挨拶をするたび、「この子は今〇年生か。」と一学年進級したことがうれしく思われ、感慨がわいてきます。

新年度に子どもたちが進級することは、保護者の皆様にとって、そして地域の方々にとっても大きな喜びかと存じます。学校が年度を越えて移り変わるとき、子どもたちの進級という事実のみならず、その成長が大きな部分を占めていると強く感じました。またこの1年間、子どもたちの成長を支え、後押ししていくよう努めたい、と改めて思いました。